

# <沖縄>で女が書くことについて ～1980年代を中心に～

翁長 志保子

沖縄近現代文学

フェミニズム批評

マイノリティ文学

研究室の所在：ソーシャルデザイン工学科棟2階

## ・なぜこの研究をしているの？

女性が“書く”もの・ことに興味を持っています。書くという行為は、誰にでも平等に開かれているようにみえますが、実際はそうではありません。そこにどのような困難があるかについて興味があり、研究しています。

## ・具体的に今やっているのはどんなこと？

1989年に文学界新人賞を受賞した、沖縄出身の女性作家・山里禎子の作品「ソウル・トリップ」の分析と、その作品をとりまく状況について研究しています。「ソウル・トリップ」は上肢欠損の身体障害のある主人公が、ゲームとして幽体離脱のようなものを実践し、最後はソウル・トリップを完成させてしまう物語です。この作品は、新人賞を受賞したにも関わらず、選評にて多くのネガティブな批判が寄せられました。この批判がなぜ起こったのかについて、当時の社会状況や選評者の作品傾向、文壇の動向、思想的な背景などを踏まえ、女性が<沖縄>で書くことはなにを引き起こすのか、またどのような困難があるのかについて分析し、作品の新しい読みの可能性について研究しています。

## ・研究成果はどのようなモノやコトに役立つの？

文学研究がわかりやすく社会の役に立つことはありません。ただし、わたしたちが人らしくいきようと考えるとき、価値観を形作っているものが“書かれたもの”＝文学などに少なからぬ影響を受けている以上、わたしたちのいきる社会をとらえるために文学研究は必要だと考えています。